

2010 年度受託研究概要報告

まちの歴史文化資源調査（予備調査）業務

研究メンバー

山之内誠	デザイン学部環境・建築デザイン学科准教授
川北健雄	デザイン学部環境・建築デザイン学科教授
長濱伸貴	デザイン学部環境・建築デザイン学科准教授
金子晋也	デザイン学部環境・建築デザイン学科助手

委託者

三木市

研究概要

本研究調査は、三木市の旧市街（三木城址付近の旧湯の山街道沿い）を対象に、まちの意匠、材料、工法、環境、精神などの、いわゆる「三木市の歴史文化資源」を整理・記録するとともに、それらをわかりやすい形で住民たちに示し、彼らに三木独自の歴史文化を再認識してもらい、最終的に継続的なまちづくりへと繋げていく手法を探ることを目的としている。

本研究は、3 年にわたり継続して実施することを前提としており、初年度にあたる平成22年度の調査業務は、次年度以降の予備調査と位置づけ、今後の調査の実施方針及び実施内容等を検討した。

具体的には、歴史文化遺産を生かしたまちづくりを実施していく上で活用できそうな要素が、三木市旧市街にどの程度存在するかを把握することに重点をおき、1) 三木の地と歴史的に密接に結びついたさまざまな歴史文化資源の抽出作業、2) 住民たちが歴史文化資源を身近に感じてふれあえる機会と方法の検討、及びその実践効果の考察（平成23年3月26日実施のPlay Town MIKI! における参加者へのアンケート調査を分析）、

3) 平成18年度に北播磨県民局の古民家分布調査により把握された三木旧市街の古民家40棟の所在地及び未調査地域の確認・把握を行い、それらを踏まえて次年度以降に行うべき研究調査の内容について検討した。

研究成果

平成22年度の研究成果は、以下の4点にまとめられる。

1) 多種多様な歴史文化資源の存在が判明：

今回の予備調査では、三木の旧市街エリアには有形のもの・無形のをあわせて10カテゴリー・47件もの歴史文化資源を見出すことができた。今後は、それらの資源を効果的に組み合わせ、まちのアイデンティティ・個性の主張（＝ブランド化）に結び付けていくこと、歴史文化資源の全体像を構造的に明示すること、そして、歴史文化資源と市民との距離を縮める工夫が必要であることが明らかになった。

2) まちを「使う」まちづくり手法の検討：

①親子参加型、②自発的移動型、③体験型の、従来型とは異なる形のタウンウォッチングを提案・実施（平成23年3月26日）し、一定の成果を得ることができた。

3) 伝統的町家の分布に関する調査状況の把握：

過去に行われた調査報告（平成18年度「北播磨地域古民家分布調査」）によると、「三木市中央部（旧湯ノ山街道付近）」として調査が行われたのは、全部で40軒のみであり、エリアとしては福井1～3丁目・本町2丁目・大塚2丁目・芝町に限られ、特にナメラ商店街（滑原町）から府内町・大塚方面はほとんど調査されていないことが判明した。実際に現地視察したところ、旧市街全域ではこの何倍もの棟数に上ると思われた。

4) 以上の結果をうけ、次年度以降、(1) 歴史文化資源の新たな活用方法の検討、(2) 伝統的町家の把握調査の実施、(3) まちの歴史文化資源に関する住人等への聞き取り調査等を実施していく方針を策定した。



写真1（左）タウンウォッチング風景（右）現地視察風景